主な感染症と登園のめやす

感染症名	潜伏期間	登園のめやす
インフルエンザ	1～4日	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過していること
百日咳	7～10日	特有の咳が消失していること、または5日間の適正な抗菌薬療法が終了していること 全身状態が良好であること
麻疹（はしか）	8～12日	解熱後3日を経過していること
風疹	16～18日	発疹が消失していること
水痘（水ぼうそう）	14～16日	すべての発疹がかさぶたになっていること
流行性耳下腺炎（おたふく風邪）	16～18日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過し、かつ全身状態が良好になっていること
咽頭結膜熱（プール熱）	2～14日	発熱、咽頭発赤、目の充血が消えた後2日経過していること
流行性角結膜炎	2～14日	感染力が非常に強いので、結膜炎の症状が消失していること
溶連菌感染症	2～5日	抗菌薬内服後24～48時間経過していて、主症状が消えていること
手足口病	3～6日	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が取れること
ヘルパンギーナ	3～6日	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が取れること
伝染性紅斑（りんご病）	4～14日	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	(ノロ)12～48H (ロタ)1～3日	嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事が取れること
とびひ（伝染性膿痂疹）	2～10日	病変部を外用薬で処置し浸出液がしみ出ないように被覆していること
水いぼ（伝染性軟属腫）	2～7週	患部を被覆すること
マイコプラズマ肺炎	14～21日	発熱や激しい咳が治まっていること
ヘルペス性歯肉口内炎	1～14日	発熱がなく、よだれが止まり普段の食事が取れていること
ウイルス性肝炎	A型 15～50日 B型急性感染 45～160日	肝機能が正常で、主治医が登園して差し支えないと認めるまで。倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸が消滅し、全身状態が良いこと
突発性発疹	9～10日	解熱後1日以上経過し、機嫌が良く全身状態が良いこと
帯状疱疹	不定	すべての発疹がかさぶたになっていること
RSウイルス感染症	4～6日	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）	10H～6日 O157 3～4日	医師により感染のおそれがないと認められていること。 (無症状病原体保有者の場合、トイレでの排泄習慣が確立している5歳以上の子どもについては出席停止の必要はなく、5歳未満の子どもに付いては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登園可能である)
結核	3ヵ月～2年	医師において感染のおそれがないと認められていること
急性出血性結膜炎	1～3日	医師において感染のおそれがないと認められていること
髄膜炎菌性髄膜炎	4日以内	医師において感染のおそれがないと認められていること
アタマジラミ	10～30日	駆除を開始していること

「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省)及び「学校保健安全法」より抜粋

○登園までの日数の数え方

例) インフルエンザ：発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで(両方を満たすことが必要です)

発症した後、5日を経過するまで 発熱した日からの数え方	発症(発熱)した日 この日は数えない	1日	2日	3日	4日	5日	この日から 登園可
解熱した後、3日を経過するまで 解熱した日からの数え方	発症	解熱 この日は数えない	1日	2日	3日		

※家族(兄弟・姉妹・親)が罹り、医師から保菌の可能性があるとされた場合、登園を控えて下さい。医師の指示もなく特に症状が見られな場合は登園させても良いです。